

非
才
又
通
徇



20230816 VOL12 MASEKKE_KU

幸
才

私たちは
あなたに光を観ようとし、真実を体験し、
それを現そうとします

通

信

今回の表紙について : quantity to quality

夏の終わりに 一句 涼風の 月夜に明く 虫の声



self-similarity:ISuN

20230816 VOL12 MASEKKE_KU

第12回 「2つのわたし」

トソスンヤン ありがとうございます。

人が「自分」を生きるとき、何を自分だと認識しているか、の段階には、5つあります。

「わたし」「わたしとあなた」「みんな」「私たち」「ひとつ」です。

いずれも人が「自分」を生きる段階ですが、今日はこのうちの「わたし」という段階に注目していきましょう。

人は、誰もが自我（“わたし”という感じ）を持ち、まずはそれを「わたし」と認識し、生きるようになります。

人は両親から、何が良いことで、何が良くないことかを教わることで、「良心」を核として持つようになります、それが「わたし」を生きる基本になります。このとき、形や意味に同化しやすい人と、他者の響きに同化しやすい人の2つに分かれます。

前者の場合、何が良いか、良くないかの判断は、基本的に対象となる人や物の形や意味であり、後者は対象となる人や物の響き、ということになります。

例えば、前者は、親切な行動をしている人、物が整理された清潔な空間、正しいことを言っている人、仕事を間違えずにきちんを行うこと、などを良いと考え、後者は、見た目や言動ではなく、人を大切に思う気持ち、心がこもった贈り物、人と人が仲良くすること、仕事の丁寧さ、などを良いと考えます。

どちらの方が良い、ということはありませんが、その人がどこにいるか、誰といるかでその人が受ける評価は変わるでしょう。

一度、自分がどちらのタイプなのかを向き合ってみると、より「わたし」が見えてくるかもしれません。

前者は、どうしても形や意味にこだわりますので、「わたしとあなた」になろうとするとき、まずは同じ形や意味を共有できる人と重なろうとします。後者は、似たような感性で、同じように感じる人と重なろうとするでしょう。

そして、「わたしとあなた」から「みんな」になっていこうとするとき、一番重なることが困難になるのは、おそらく前者と後者だと思います。

形や意味にこだわる人と、響きや感性にこだわる人は、お互いに相入れない感じがあり、最後まで重なることが難しいと感じるのです。

それでも人は、意図さえ持てば、重なることができ、そしてつながって「私たち」となり、やがて「ひとつ」になることができます。

そのことを知って、ぜひ「ひとつ」を生きる自分になろうとしてください。

次号へ続く

トソスンヤン ありがとうございます



夏の終わりは 耳に残るセミの鳴き声 あっ、これは耳鳴りか

第12回 ワナム(中谷 哲則) さんについて

トソスキツマ ありがとうございます。

今回は、ワナム(中谷 哲則)さんについてお伝えいたします。



【農法大三島開拓担当】

“人々の内側を純粹さで満たし、喜びを生きる世界の実現”という農法部門の達成を受け取るため、日々活動されています。

Q1. ワナムさんにとってK-PVTとは

A1.
目覚めであり、欠かせないもの

Q2. ワナムさんにとってKIRとは

A2.
創造の源であり、創造でしかない場所

お会いしてしばらくの間は、ワナムさんは言葉数が少なく、「何を考えているのだろうか？」と思っていました。徐々に接する機会が増えてきて、ワナムさんは、色々なことが頭を巡っているのだなあ。と感じました。普段は、幅広く色々と考えていらっしゃるのですが、すべきことに焦点が当たったとき、ものすごいスピードで美しく解決していきます。「すごいなあ」と、いつも思います。

トソスキツマ ありがとうございます。



植物から自然知性を学ぶ

ツケオ

第12回 種には、始めから達成がある

トソスツケオ ありがとうございます

達成とは、はじめからある。という知識があります。

でも、はじめからある達成とは、なんだろう？と思う方も多いと思います。

形のある植物を通して知識を考察すると、抽象的で分かりづらい知識が、とてもシンプルに理解することができます。植物での達成とは、種のことです。植物は、G9という達成で種を形成して、次年度のG1としての種として目覚め種まきをして、そして葉や花、実と成長して、再び達成というG9を受け取ります。これを永遠に繰り返しています。

はじめからある達成ですので、ひまわりの種はひまわりの花が咲き、ひまわりの種が出来ます。

ひまわりの種が、どんなに頑張っても、バラの花になることはありません。

人間は、はじめからある達成というものを忘れているので、努力をして何者かになろうとする方が多いと思います。植物は、なんにも努力をすることなく、自然という環境に寄り添い、季節の繰り返しの天候の中で、順を追った展開を繰り返しています。人間は、自然というものに挑戦する感じで、なんとかしようとして、努力をして何かの願望を叶えようとしています。

でも、このような努力をして願望を叶えても、達成ではないので、終わりが無いと言われていました。

努力をして、無理してなんとかしようとして生きることが、良いことだと教育されていましたが、植物を見ていると自然と感じます。

春になれば桜の花が咲き、夏になれば植物が青々として成長して、秋になれば紅葉があり、冬になれば草木は枯れるだけです。

桜の花が、人間を喜ばせようと1年中咲こうとする努力はしませんし、冬でも元気で青々として成長しようとするということもありません。

植物は、はじめからある達成のサイクルを、達成を大きくしようとして、永遠に繰り返しているだけです。達成を大きくするとは、一粒の米が発芽して稲となり、無数のお米として収穫して、収穫した米が新たな種として稲になることで、倍々以上にお米が増えていくことです。

これから考えると、ヒトも達成を大きくすることを永遠に繰り返しているだけかもしれないです。

何者かになろうとするのではなく、はじめからある自身の役割である達成というものを、永遠に繰り返し大きくすることを創造するのがヒトだと思います。

達成に目覚め⇒原初の光の質で現す⇒達成を受け取る。これを永遠に繰り返す。

そして、これが自然に寄り添うということだと思えます。

トソスツケオありがとうございます



夏の終わりは 秋の訪れに目覚め倣ふ

第12回 大三島の楠

トソスワナム

ありがとうございます。

大三島も多くの島外の人が行き交い、また違った雰囲気は島には流れています。夏真っ盛りの大三島ですが、虫たちの様子が変わってきていて、何か秋の気配を感じてきています。

大山祇神社には大きな楠があります。

中国大陸南部の、照葉樹林帯を母郷とする「越」の人たちが古代に大三島に渡ってきて、越智氏が誕生した。越智氏は、祖神を祀る場所を考えたとき、汚れのない島を選び、その故郷と同じく照葉樹の中でも格別に尊ばれた楠の木が多く繁っていた。楠は腐りにくく、船材に適しており、大木にもなる。それが現在、ご神木としてある大きな楠です。

ご神木の東方には、二抱えほどの石があり、表面には手のひらほどの窪みが刻られていて、そこに供物を置いて供えるようになっていました。

楠とこの石とを結ぶ線は、真っ直ぐに真東を差していて、神殿はその中央に建っています。

春分と秋分の朝日が東の山に姿を見せたとき、その先はこの石と楠を結ぶ線上を貫き、やがて本殿の中央から姿を見せる。

島の東側にはかつての神社が最初に建てられた横殿があり、神殿と鳥居は一直線に真東に向いていて、島で最初に朝日を受ける場所だとされてきました。

このように知識に沿って配置されているとともに、古代から豊かな島であったと感じます。

トソスワナム

ありがとうございます。



第12回 知と情

トソスヤリノ
ありがとうございます。

先日、ンヤン先生の講座で「知」と「情」について学びました。
また、ちょうど同じ頃に診察で自身がどちらが強いタイプか、ということについても伺いました。

どうして自身が今までの人生で何度も同じことでつまづいてきたのかがわかりました。

この文章を書いている今も、自身の内側で起こっていることがよく感じられるようになりました。

純粋な知識を学び、K-PVTで体験したことを自分勝手に解釈するのではなく、正確に理解する。それは日常生活で感じるということについても言えます。

知と情というものについて知り、自身の性質を知り、そのどちらも育てていくことで啓発に向かうこと。その達成をまず観ることでいまずべきことがわかってきます。

トソスヤリノ
ありがとうございます。



第12回 ヒフミ

トソスワトホ
ありがとうございます。

コトハの響きの最小単位は【ヒフミ】です。【ヒフミ】の知性によって、意識は自らに目覚め、現れ、戻ることにより、自らの内に観察する者、観察する過程、観察される対象の関係を確立し、最初の被造物としての自然知性が生じます。

すべての音は【ヒフミ】の重なりであり、多様な響きによって世界は創造されています。

トソスワトホ
ありがとうございます。



夏の終わりは 鈴虫が鳴きます。

第12回 人生ってスリリング

トソスナエン
ありがとうございます

キオマ食堂では、個人的にお客さまと会話する機会がほとんどありません。気持ちは寄せていても、自ら積極的に会話をしていくタイプでもないので、表面的に接点が少ないのかもしれませんが。

そんな人見知りタイプのナエンにとって、先日忘れられないうれしい出会いがありました。5才の女の子がおかあさんにご来店なさいました。お子さまがいらっしゃる時、ナエンは毎回とても楽しみでわくわくしています。キッズプレートをご予約いただいでいて、お作りする段階からいつも細心の注意を払ってしまうのですが、当日もドキドキしながら楽しみにしていました。遠くから初めての場所に来て、知らない大人たちがごはんを食べていて、大人たちが笑顔でようこそと迎えても、緊張気味の小さな女の子は、おかあさんの後ろに隠れちゃうのでした。そんな様子も可愛くて、なぜか娘の小さい頃のこと思い出されたりしていっぺんで大好きになってしまったのでした。

大好きになったら相手のことをよくみて、相手を知ろうとします。よろこぶことをしたいと思います。笑顔がみたいと思います。くっついて近くに居たいと思います。いちいちそんなことを考えながら動いた訳ではないけれど、閉店後のキオマ食堂で追いかけてっこをしたり、布きんでキャッチボールをしたり気づいたら私たちは、年齢の差も超えて、とてもなかよしになっていました。バイバイするのが切なくて、明日も会いたくなっちゃうくらい。

こういう感覚、忘れていたなあ、あとから気づくのでした。そしてそれって、はじめから全開だったからそうなんだなど、粋や垣根や常識なんかも簡単に飛び越せるポイントをそこに観たような、得難い感覚を掴ませてもらえて、あの無邪気な笑顔に感謝しているのです。

トソスナエン
ありがとうございます



第12回 その12

トソスチケエ

ありがとうございます。

チケカフェでは営業日のたびにメニューを手書きしております。最初はコピー用紙と色画用紙。転じて、ハープを並べて写真を撮り、印刷したものに書き込むようになりました。

ある日。某無印のネット通販で、もうちょっと買えば送料無料なんやけどな〜と思いながらサイトを見ていると、「絵本ノート（小）」なるものが目に留まりました。あ…、とそのとき頭に浮かんだのは、ちけえが最近しつこく足を運んでいる、と言ってもわしのしつこさは序の口なのですが、某喫茶店の手のひらサイズのメニューで、構成も含めよくできてるなあと感心しつつ、自身のやりたかったことのヒントが散りばめられているそれを何度もぱらぱらしながら、静かに感激していたときのことでした。一発で描き上げるプレッシャーを欣びに変え、これでチケBook作ってみるべしenjoyと決め、ぼち。5,000円に届かず、2冊ぼち。

で。このメニュー、毎回開店してからやっと思書始めるのです。マスター曰く「だってさ、開店1時間前くらいから作り始めるしさ、その時にならんとわからんやん、どんなお菓子とかメニューになるかなんてさ」

意図も達成も行方不明。わしの反応3階建ての1階部分とわかっていながら、毎度もたもたしている、自信のない自身を歯がゆく感じていたある日のこと。珍しく前もってメニューを書き、お昼の祭祀に参加したのですが、その最中、さっき「すいかジュース」って書いたけど、すいか売ってる？せっかく作ったけど売れ残ったら？ほんまにええんかな？種取るのまたもたもたするかも、もう描き直されへんし…という想念が次々浮かび、その一方で、迷いなく「すいかジュース」と書いた自身がいること、ややぬるめの滋養のある赤い飲み物を召し上がってくださるいくつかのお顔が内側にあることは確かなのでした。

その日、すいかジュースを召し上がってくださったいくつかのお顔をお見送りした後気がついたのですが、すいかはスーパーにあるのではなく、「ここ」にあるんじゃないか？

トソスチケエ

ありがとうございます。



夏の終わりは すいかの種とり、上手くなっているでしょうか。

コトハを学び、ミコトを生きる

ワラン

第10回 「お洒落な人は服装にこだわっているのか？」

トソスワラン
ありがとうございます

皆さん、こんにちは。ワランです。
今回は「コトハを学び、ミコトを生きる」の第10回です。

世の中には、お洒落な人がいます。一般に、お洒落とは、服装や化粧など身なりを洗練したものにしようと気を配り、美しく装うこと、などと言われています。

では、お洒落な人は、服装にこだわっているのでしょうか。
いや、そうとは限りません。

本当にお洒落な人は、いつでも、何をしても、自然に装いを楽しみ、自身を表しています。何を着てもカッコいい、美しいと思ってしまうくらいです。本人にはお洒落をしているという感覚すらないかもしれません。その自然さ、無邪気さがお洒落な雰囲気醸し出しているとも言えます。

実際、「洒落」というのは、心がさっぱりしていて物事にこだわらないさまを意味する「洒落（しゃらく）」という言葉に由来するそうです。

このように、一見「こだわり」に思えるようなことでも、実はそうではない、ということがけっこうあります。外側からの評価を超えて、その人の内側の光が無邪気に現れていることなのだと思います。

トソスワラン
ありがとうございます



夏の終わりは 甲子園の決勝戦

第12回 達成はシンプルなのに

トソスキリヲありがとうございます

皆さまこんにちは、いかがお過ごしですか？

立秋を過ぎ、暑さの質が変わりはじめ、朝にはコオロギ、夜には鈴虫の鳴き声が耳に届き始めた、ここ今治です。

夏と秋の狭間のようなこの時期に、季節が描くグラデーションを眺めていると、日本の四季は本当に豊かだなあと感じます。

キオマ通信は本号で12通目を迎えます。

発刊は今年の春ですが、キオマ通信の企画を提案したのと同じころ、もうひとつの企画を立ち上げておりました。

約5か月という長い時間がかかりましたが、その企画がようやく形になってきて、仕上げの段階に入ってきました。

ここに至るまでに状況が2転・3転し、そのたびにフローを複雑化せざるを得ず、「達成はシンプルなのに、なぜこんなに細かくて面倒なことをしてるのだろう…何か間違えているでは？」と自分を疑いながら取り組んでおりましたが、「達成が見えていればそれでよい」という天の声に励まされながら、現在はチームで細かな仕上げを進めています。

以前みんなで決めたこの企画の達成は、とても確かで、明るく、輝いていて、尊さを感じられるようなものでした。

でもこの数日も疑いがでてきてしまい、疑っては達成を思う、疑っては達成を思う、を繰り返していたところ、今日になって初めて、「細かくて面倒」と感じていた作業が、まるで光の織物を織りなすような、とても価値のある事柄のように感じられ、山場を越えられた気分です。

でもそれだけでは絶対的な不足があることもわかっており、先日頂いたばかりの「現在やるべき課題」にフォーカスしながら、皆で達成に向かっていければと思っています。

皆さまは現在、どのような達成に向かい、どのような取り組みをされていますか？

よろしければぜひ、皆さまのお声をお聞かせください。

それでは、次回は約2週間後のマセケのメ、満月の日にお目にかかれますよう。

本号もお読みくださり、まことにありがとうございます。

2023年8月16日、マセケのク、新月の日に。

トソスキリヲありがとうございます



夏の終わりは 夜の散歩に行きたくなります



光の世界の中でマ〜たちは欣びを現しています

マ〜星人?と思われた方はこちらへ



光の生命体「マ〜星人」-6- マ〜星のマ〜たち





KoToHa *Integral Research*